

WINTER/2021

VOL.92

発行／(公財) 東京都人権啓発センター

誰もが幸せを実感できる社会へ

TOKYO 人権

特別企画

東京2020
大会

生きなおす、とは



気づき、
そして振り返る
きっかけに

公益財団法人 東京都人権啓発センターでは、「人権の大切さ」に気づき、振り返ってもらうことを目的として、毎年、人権啓発ポスターを発行しています。

ご希望の方にポスターをお分けします。
詳しくは下記までお問い合わせください。

公益財団法人 東京都人権啓発センター
企画広報課 ポスター担当
電話：03-6722-0083
Eメール：homupe@tokyo-jinken.or.jp

※ポスターは3種類あります。送料をご負担ください。在庫がなくなり次第終了とさせていただきます。

- ・人権週間ロゴ入り B1縦／B3横
- ・人権週間ロゴ無し B2縦

2021年の人権啓発ポスター



あふれる涙は
みんな
いっしょなのに。
どうして
泣いているのかな
なんだろう
わたしにできること
考えてみよう
想像してみよう
となりの人のこと
とおくの人のこと
涙を笑顔に。
差別のない東京へ。

公益財団法人
東京都人権啓発センター
https://www.tokyo-jinken.or.jp/

東京都が掲げる 17の人権課題

- 女性 ●子供 ●高齢者 ●障害者 ●同和問題（部落差別） ●アイヌの人々 ●外国人 ●HIV感染者・ハンセン病患者・新型コロナウイルス感染症等 ●犯罪被害者やその家族 ●インターネットによる人権侵害 ●北朝鮮による拉致問題 ●災害に伴う人権問題 ●ハラスメント ●性自認 ●性的指向 ●路上生活者 ●様々な人権課題（順不同）

YouTube / 公財・東京都人権啓発センター

主催事業等に関する動画をアーカイブし、YouTube公式チャンネルで公開しています。是非ご覧ください。



動画一覧

東京都人権プラザ図書資料室「学ぼう、調べよう、人権」／企画展「読む人権 じんけんのほん“感染症と差別”」ブックトーク など



公益財団法人
東京都人権啓発センター
TOKYO METROPOLITAN HUMAN RIGHTS PROMOTION CENTER

〒105-0014 東京都港区芝2-5-6
芝256スクエアビル2階
TEL 03-6722-0082（総務課）
FAX 03-6722-0084
https://www.tokyo-jinken.or.jp/



東京都人権プラザ
TOKYO METROPOLITAN HUMAN RIGHTS PLAZA



（公財）東京都人権啓発センターは東京都人権プラザの指定管理者です。

目次 CONTENTS

3 INTERVIEW

暴力の加害と被害を見つめて

NPO法人 out of frame 代表 ^{さがみ かおり}坂上 香さん



7 特別企画

オリンピック・パラリンピックが伝えたこと

寄稿 東京2020大会は何を遺したのか

一人権と平和を目的とするオリンピックの観点から

法政大学法学部教授 ^{たていし ひろこ}建石 真公子さん

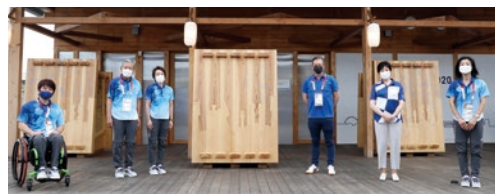


Photo by Tokyo 2020

寄稿 2度目の東京パラリンピックの「意味」

作家 ^{ひらやま ゆずる}平山 譲さん



図解 東京2020大会をめぐる人権に関する出来事

11 子ども相談室

こんなとき、どうするの? 【テーマ】性別と偏見

子ども向け

解決! ユニバーサルデザイン/人権 世界へのトビラ



13 特集

農福連携のソーシャルファーム

14 JINKEN note

コラム みんなが遊べる公園

「インクルーシブ公園」へ行こう!



毎週土曜日
放送中!

蓮見孝之
まとめて!
土曜日

毎週土曜日 朝 7時~8時45分



(公財)東京都人権啓発センターでは、人権問題をテーマに、リスナーに分かりやすく身近な話題を取り上げる人権啓発ラジオ番組を提供しています。

人権
TODAY

最近の放送テーマ 町田市を拠点に活動する『生活困窮者支援らぼん』/対話を通じて校則を見直す取り組み/大切な人を亡くした喪失感のケアサポート

番組名 | 人権TODAY「蓮見孝之まとめて!土曜日」内のコーナー
放送局 | TBSラジオ AM954kHz/FM90.5MHz
放送日時 | 毎週土曜日 朝8時20分頃から5分間
キャスター | 蓮見孝之さん、北村まあささん



暴力の加害と被害を見つめて

NPO法人
out of frame 代表
さかがみ かおり
坂上 香さん

暴力の被害体験と、 いじめの加害体験

暴力の問題を強く意識するようになったのは、中学2年のとき、転校したばかりの学校で受けた集団暴行がきっかけでした。15人くらいから殴る・蹴る、煙草の火を腕に押し付けられる、髪の毛をつかまれて振り回され土下座させられる、という激しい暴力を浴びせられました。

身体に受けた傷やその痛みもつらいものでしたが、その場にいた級友や先生たちが傍観していたことや、学校に訴えても何の対応もしてもらえなかったことによる精神的な苦痛は、もっと大きなものでした。このとき味わった「どうせ誰も助けてくれない」という日本社会への不信感や憤りは、この体験から40年以上過ぎた今でも拭い去ることができません。

小学生の頃から、両親共に夜も仕事で不在がちで、私は5歳年下の弟の生活全般の面倒をみなければならぬヤングケアラーのような状態でした。そんな中、私は弟をいじめるようになってしまったのです。自分もまだ子どもなのに、誰にもケアしてもらえない鬱屈した気持ちのはけ口になっていたように思います。暴力やいじめの加害者は、それ以前に被害者だった経験をもっていることが多いのですが、その両面性は、私自身の経験にも当てはまるところがあります。



さかがみ・かおり

ドキュメンタリー映画監督。NPO 法人 out of frame 代表、一橋大学客員准教授。1965年生まれ。1992年ピッツバーグ大学社会経済開発学修士課程修了。2001年までテレビディレクター。津田塾大学などでの専任教員を経て、2012年より映像作家の活動に専念。ドキュメンタリー『Lifers ライファーズ 終身刑を超えて』（2004年）は、ニューヨーク国際インディペンデント映画祭で海外ドキュメンタリー部門最優秀賞を受賞。最新作で日本を舞台にした『プリズン・サークル』は、令和2年度文化庁文化記録映画大賞を受賞。主な著書に『癒しと和解への旅』（岩波書店）、『ライファーズ 罪に向きあう』（みすず書房）。

加害者は、一人の人間として扱われる経験の中で、初めて思いやりや罪の意識が芽生えてくる。

閉塞感に満ちた日本を脱出し、生きていく意味を求めて留学した

「父親は仕事人間で家庭に無関心、母親は教育ママ」といえば当時の典型的な家庭像のようですが、私の母の教育ママぶりは常軌を逸していました。私の意志にかかわらず、いくつもの習い事に通わされていました。しつけの名のもとに毎日のように叩かれ、安堵できる場所はどこにもありませんでした。小学校高学年の頃、トイレの中で「死にたい、死にたい」と念仏のように唱えていたことを覚えています。進路も親の考えを押し付けられ、将来にも全く希望が持てませんでした。

高校時代に、近所の米軍横田基地の周辺に住む同年代のアメリカ人たちと友達になり、彼らと共に過ごすようになりました。そこで出会ったアメリカ人大学生の影響で国外への思いが募り、両親を説得してアメリカの大学に進学できることになりました。その頃はとにかく、生きていく意味を求めていました。

息子を奪われても「死刑を望まない」その思いに強い衝撃を受けた

進学先のアメリカの大学では、南米チリ出身の人権活動家、ベロニカ・デ・ネグリさんとの出会いに大きな影響を受けました。ベロニカさんのことは米紙『ワシントン・ポスト』のインタビュー記事で知り、私がアムネスティ・インターナショナルの大学内支部を設立するきっかけになりました。ベロニカさんは軍事独裁政権下のチリで、息子さんを殺されたばかりでなく、ご本人も激しい拷問を生き抜いた経験を持ち、その暴虐の実態を告発する活動をされていたのです。

ある日、アムネスティの会合をきっかけに、彼女と話す機会を得ました。「あなたを拷問にかけて、あなたの息子を殺害した人は死刑になるべきです」と伝えるところ、彼女の表情がパツと変わり、「死刑にしてどうなるの？拷問でぐちゃぐちゃになった内臓が戻るの？悪夢を見なくなるの？息子が戻ってくるの？」と矢継ぎ早に訴えられました。

思いも寄らぬ反応に私は衝撃を受け、刑罰、とりわけ死刑制度は被害者のためにあるのではないのだと思い始めました。このことは、加害と被害についての見方が大きく変わっていくきっかけとなりました。

※1 世界最大の国際人権 NGO。P12「人権 世界へのトビラ」で紹介。

映像でなければ伝えきれなかった 南米チリの壮絶な風景

その後、アメリカで大学院に進学し、独裁政権が崩壊した直後のチリを、現地調査のために訪れることになりました。当時のチリでは、反政府デモが頻繁に行われていました。外国に亡命していた人たちが帰国し、駆け寄って抱き合い号泣するなど、目の前で壮絶なドラマが生まれていました。その感動は論文だけでは到底伝えきれず、映像で記録しておきたいと考え、修士論文には現地で撮影した映像を添えました。この経験が卒業後に映像ジャーナリストの道へと踏み出すきっかけになったのです。

ライフアーズ(終身服役者)が、大きな役割を果たす社会復帰プログラム

大学院を卒業後、帰国してテレビのドキュメンタリー番組の制作に携わるようになりました。国内外で暴力や犯罪の加害者を取材する中で、アメリカ・アリゾナ州にある民間団体で、犯罪者や薬物依存者の社会復帰をサポートする「アミティ」が運営するTCC (Therapeutic Community、セラピューティック・コミュニティ、治療共同体)のことを知ったのです。

アミティは、刑務所に服役している受刑者向けの社会復帰プログラムを提供しています。そこで行われるTCCでは、複数の受刑者が一つのグループに属し、対話を通じて、自身の精神面に目を向け、自分の過去



右／映画『ライフアーズ』出演者のジミーさんと(2006年頃)
左／撮影クルーとロサンゼルスで(2006年頃、中央：カメラン南 幸男さん、左：森 英司さん)

や犯した罪に向き合っていきます。

この運営には、「ライフアーズ」と呼ばれる、重罪を犯し終身刑に服している受刑者たち自身が、重要な役割を果たしています。彼らが他の受刑者の精神的な更生を導く役目すら果たしていることに大きな感銘を受けました。その様子を取材したドキュメンタリー『Lifers ライフアーズ 終身刑を超えて』を、2004年に自主製作映画として公開し、大きな反響がありました。

「一人の人間として、接してほしい」という言葉のもつ重み

映画『ライフアーズ』を題材として取り上げたある大学の犯罪学の授業に、映画に登場していたケルビン・ゴッシュン元受刑者がゲストとして招かれたことがあります。その場で、将来司法の現場で働きたいと考えている学生から、「容疑

者や受刑者どのように接したらよいか」という質問がありました。ケルビンは、たった一言「一人の人間として、接してほしい」と答えました。

更生した受刑者を取材すると、アメリカでも、日本でも、「自分が変わりたいと思ったのは、一人の人間として接してもらえたからだ」という話を繰り返し聞くことになります。加害者を人として扱わず、理解不能な「モンスター」として扱ってしまうこと、それが彼らの「変わりたい」という心の芽を摘んでしまっているのだと感じます。

尊重されるという経験が生む、暴力と真逆の「相手への共感性」

取材を通じて実感するのは、世界中のどこでも、犯罪加害者の多くは自身の成育歴の中で、幼少期に保護者から虐待を受けたたり、ネグレクトされたたりした経験を持つているということです。誰からも気持ち理解してもらったことなく、人として尊重されずに育ってきたことが、犯罪を生む要因になっているのです。

アミティでの取材中、受刑者たちの語る凄まじい話を聞いているうちに、思わず号泣してしまったことがありました。そんな私を見た彼らは、涙を拭くためのティッシュを持ってきてくれ、ハグしてくれ、優しい言葉をかけてくれました。そのような思いやりの気持ちは、アミティのTCCプログラムを通じて、彼らが一人

の人間として尊重されると同時に、相手に共感するという経験によって育まれたものだったのです。

日本で唯一TCCを導入している 刑務所を描いた『プリズン・サークル』

ただ、日本の刑務所がTCCを導入できるだろうか考えたとき、その実現の可能性にはかなり懐疑的でした。

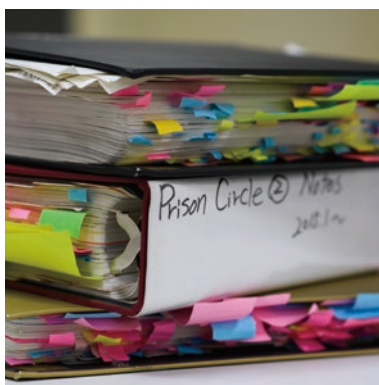
ところが『ライフアーズ』の影響は、私がまったく予想できなかったところにまで広がりました。官民が共同で運営している「島根あさひ社会復帰促進センター」の刑務所の中に、アミティ流のTCCで受刑者の矯正を行う「TCCユニット」と呼ばれる施設が立ち上がったのです。出所後の再犯率の低さなど、本国のアミティと同等の成果をあげています。

この「島根あさひ」のTCCユニットを取材し、ドキュメンタリー映画『プリズン・サークル』^{*}を製作しました。20代の



映画『プリズン・サークル』の舞台となった刑務所を初めて訪れた際に、挨拶の様子(2009年)

被害者や遺族の願いは、
罰することだけではない。
加害の起こりを知りたいと
願う人たちも存在する。



受刑者たちが、深い対話を通じて、自分の生い立ちや犯した罪に向き合っていく姿を描いています。

被害者が加害者を知ること、ただ禁じるだけの司法に疑念を抱く

犯罪の被害者側の方々から、「坂上さんは加害者側の（立場に立っている）人」といわれることがあります、私は加害者を擁護しているつもりはありません。被害者の方に、加害者が置かれている事情や状況に理解を求めることを強要すれば、それ自身が一種の「暴力」になってしまう。しかしそれでも、加害者について知りたいという気持ちを持つている被害者は少なからずいるのです。知ることによって前を向ける人もいます。「修復的司法^{*}」という、被害者と加害者、犯罪の影響を受けた周囲の人々などが話し合う取り組みがあります。一つの選択肢として、被害を受けた人が癒えるようなケアや制度が必要だと考えています。

相手を知る尊さと

「人を人として見る」視点の大切さ

私は作品を製作する中で、人は傷を負った後、どう生き直していけるか、よりよく生きていけるのかを考え続けてきました。例えば、刑を終えて出所した人が再出発するとき、「怖い」といった社

会の偏見に悩まされることがあります。「自分とは違う人」と線を引いてしまう周囲の姿勢が、相手を一方的に「モンスター」に見立てたり、怖いと思わせたりする理由です。誰もがイメージで判断せず、もう少し相手を知ろうとするまなざしがあれば、偏見はかなり減らせられると思います。受刑者に変化を生む一番のきっかけとなる「人を人として見る」視点は、あらゆる制度や地域コミュニティにとっても重要ではないかと思うのです。ごく単純ですが、すごく難しいのです。

『プリズン・サークル』を観たことで、「罪を犯した人への見方が変わった」「対話を心がけるようになった」「自分も何か役に立ちたい」と声を届けてくださる人たちもいます。そうした声を胸に、ドキュメンタリー映画の製作を通じ、発信し続けていくことで、変えられるものがある^{*}と信じています。

インタビュー 吉田 加奈子（東京都人権啓発センター専門員）／編集 杉浦由佳／撮影（表紙・2〜6ページ） 百代

**「暴力とは何か」を知るための
坂上さんおすすめDVD**



『パパ、ママをぶたないで!』
（監督：アニータ・キリ）
©TROLLFILMS AS 提供：パンドラ

※2 ドキュメンタリー映画『プリズン・サークル』：取材許可まで6年、撮影2年。初めて日本の刑務所にカメラを入れた圧巻の2時間16分。公式サイト <https://prison-circle.com/>
※3 事件の当事者が主体的に集まり話し合うことで、事件によって引き起こされた害悪の解決をともに模索する取り組み。関連記事『TOKYO人権』67号 特集「被害者と加害者の対話がもたらすもの」



オリンピック・ パラリンピックが 伝えたこと

2021年9月5日「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が閉幕しました。「多様性と調和」を理念の一つに掲げ「共生社会」を目指した大会は、私たちに何を伝えたのでしょうか。本企画では、東京2020大会を二つの寄稿文と図解を基に振り返ります。



パラリンピック陸上 4×100m ユニバーサルリレーでのタッチの様子(写真: 西村尚己/アフロスポーツ)

オリンピック憲章には「いかなる種類の差別も許されない」という人権尊重の理念がうたわれています。この理念や東京2020大会が掲げる「多様性と調和」と照らして、実際の大会はどうだったのでしょうか。女性選手の参加率が過去最高であったこと、性的少数者であることを公表した選手の数が最多であったこと、競技施設のバリアフリー化が進んだことなど進展が見られた分野もあれば、大会関係者の人権配慮に欠ける言動など、人権への配慮が足りないという議論を呼ぶ一面もありました。コロナ禍において実施する意味が問われ、オリンピック史上初の延期と無観客という未曾有の条件で開催された東京2020大会。良くも悪くも、人権に関して、これまでにはないほど議論が交わされた大会でした。

東京2020大会が体現しようとした多様性や人権というテーマは果たして日本に根付いたのかと、厳しい見方もあります。それでも、果敢に限界に挑むアスリート

の姿勢は、見る者に力を与えてくれました。さらに、批判やプレッシャーに負けず、差別にも屈することなく戦い抜く選手たちの姿は、人権が尊重された世界を追求していくことへの決意表明とも感じられ、多くの共感を呼びました。結果として、アスリートが互いにたたえ合う姿や、国内外から多くの選手や関係者が参加し一つの大会をつくり上げていったことは、国境を越えて、人と人が互いを大切にしようとしたことができた表れとも思えます。

実施運営についてさまざまな評価がされる中で、大会の教訓は、大会の中心で関わってきた人たちだけでなく、一人ひとりの振り返りによって今後に生かされると考えます。今後私たちの生きる世界がどのようになると良いでしょうか。本企画では、人権に関する出来事を中心に据え、「人権」をキーワードに東京2020大会を振り返ってみたいと思います。

東京2020

大会は何を遺したのか

―人権と平和を目的とする
オリンピックズの観点から



建石 真公子

たていし・ひろこ

法政大学法学部教授、専門は憲法。JOA 監事、国際ピエール・ド・クーベルタン委員会会員、川崎市人権協議会会長。クーベルタンのスポーツを通しての国際平和という考え方に共鳴している。

東京2020大会への疑問

本大会は、招致から開催まで、招致疑惑、森氏の女性蔑視発言、開会式の人種差別発言者の起用など、様々な不祥事があった。東京2020大会の検証において、政府、東京都、組織委員会は次の3点を明らかにする必要があるだろう。

第一に、復興五輪と銘打った予算の使途である。東日本大震災から10年経過した現在も仮設住宅に暮らしている人、災害公営住宅に入居しても家賃や孤独などで苦勞している人もおり、また2021年4月からの原発の汚染水の海洋放出など課題は残されている。復興に充てられるはずの予算、人員や資材が、五輪の実施においてどのように使用されたのか。

第二に、オリンピック招致に関する民主的統制の必要性である。諸外国では、オリンピック招致の可否について住民投票を実施している自治体も多い。東京2020大会は、予算、都市計画、環境に関して住民の生活に多大な影響を及ぼした。今後のメガスポーツ大会招致は、政策上の利害ではなく、住民の意思を問う必要がある。

第三に、オリンピックズの要請している人権保障を国内で実現し得たのかという点である。人権問題は、今回クローズアップされた女性差別だけではない。難民選手団が参加し、IOCがSolidarity（連帯）として途上国の選手を支援して

いる傍ら、開催国の日本ではスリランカ人女性のウイシユマ・サンダマリさんが名古屋出入国在留管理局で死亡した。平和の実現の一環として五輪における難民選手団の存在意義を評価するならば、日本における難民政策の見直しが求められる。

東京都は、人権について国に先んじて「東京都オリンピック憲章にうたわれる人権尊重の理念の実現を目指す条例」を制定し、LGBTの権利保護とヘイトスピーチ禁止を定めた。この点を評価し、今後の実効性に期待する。一方、開催都市として「オリンピック・パラリンピックと人権の共同コミニケ」^{※3}を採用できず、平昌冬季大会（2018年）までの人権レガシーが継続されなかったことは大変残念である。

1964年の東京大会は、戦争責任を抱えた日本が、未だアジア諸国との間に問題を抱えつつも国際社会に平和憲法の国として登場した大会といえる。また国民に「スポーツを通じての国際社会との連帯」に気づかせた功績も大きい。

コロナ禍で開催された東京2020大会。人命と経済振興の関係という意味で、今後に大きな課題を残したといえよう。東京都は、個人の尊重と国際社会の平和というオリンピックズに照らし提起された疑問や課題の解決に取り組み、良い遺産へとしていくことが求められている。

招致活動の「復興五輪」「未来の都市モデル」「オリンピックズ」という目標

オリンピック大会はなぜ開催されるのか。それは、クーベルタンの提唱したオリンピックズに基づいた、オリンピック・ムーブメントの5大陸における実践としてである。オリンピック憲章によれば、オリンピックズは、「肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学」であり、その目的は「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進をめざすために、人類の調和の取れた発展にスポーツを役立てる事」とされている。すなわちオリンピックズは、人権と国際社会の平和をめざすという、幅広く難しい目的を掲げているといえる。それでは、東京2020大会ではどのようなオリンピックズの実践がなされたのだろうか。

東京2020大会の招致活動において、「五輪を復興のシンボルとする」^{※1}と当時のJOC竹田会長は述べ、「世界で最も安全・快適な未来の都市モデルを示す」^{※2}と当時の石原都知事は表明していた。一方、オリンピックズに関しては、当時の安倍首相はIOC総会で「日本人こそは、オリンピック運動を、真に信奉する者たち」と主張した。これらの目標は果たして達成されたのだろうか。

※1 毎日新聞、2011年7月17日。

※2 平成24年第3回都議会定例会、知事所信表明、2012年9月19日。

※3 建石真公子訳「人権とオリンピック・パラリンピック—イギリス、ロシア、ブラジル、韓国共同声明」『スポーツとジェンダー研究』2014年12巻、p.147-150。

2度目の東京 パラリンピック の「意味」



平山 譲

ひらやま・ゆずる

作家。1968年東京都生まれ。
スポーツに関する実話をもとに
した物語を数多く執筆。主な著
書に『灰とダイヤモンド―三宅
高校野球部、復興へのプレイボー
ル』『片翼チャンピオン』など。

「意味」という言葉を、パラリンピッ
クに出場する選手は使うことが多い。

「多様性の価値や障害者の理解につな
がる一つのパフォーマンスとして、メダ
ルを獲得を見せることができた。障
害をおった意味が、この瞬間にあったの
かなと実感した」

東京パラリンピック競泳400メートル自由形
の銀メダリスト、富田宇宙選手の言葉だ。

東京は、夏季パラリンピックを史上初
めて2度開催した都市になった。その2
度の「意味」を、私は考えてみた。

昨年、発掘されたカラーフィルムを見
た。前回1964年大会の様子を、当時
の厚生省職員が撮影したものだ。鮮明な
映像からは、大会規模が極めて小さく、
観客もほとんどおらず、注目度が低かつ
たことが窺えた。また日本人選手の競技
レベルもリハビリの一環といった域を出
ないものだった。

しかし、そんな大会にも「意味」はあっ
た。飛躍的に経済が成長していた高度成
長期だったにもかかわらず、日本選手全
53名のうち職業を持っていたのは自営業
者の5名のみだった。1960年に身体
障害者雇用促進法が制定されてはいた
が、当時の障害者は保護という名目で施
設に隔離されている場合が多々あった。
いっぽう、パラリンピックに参加した海
外の選手はほとんどが就労していた。歴
然たる世界の進歩を関係者が認識できた
だけでも、のちの障害者の社会参加への

足掛かりの一つになったのだろう。

そして今夏、迎えた2度目の東京パラ
リンピック。史上最多254名もの選手
が参加し、認知度も98・2%^{*1}と高まり、
1度目と思うと隔世の感がある。ところ
が、新型コロナウイルスの感染拡大によっ
て、大会は1年延期されたのみならず、
開催自体が危ぶまれた。7月に4度目の
緊急事態宣言が発令された時点では、開
催に「反対」が55%、「賛成」は33%^{*2}と3
人に1人とどまった。国立競技場周辺
では市民団体による反対デモまで行われ、
紆余曲折の末、「学校連携観戦」が一部行
われた以外は無観客での開催となった。

そんな2度目の東京パラリンピック
に、「意味」はあったか。たしかに直接
観戦できる貴重な機会は失われたもの
の、テレビや新しいメディアで多くの
人々がその魅力に触れた。ラケットを口
に咥えて首を振ってスピンを掛ける卓球
のイブラヒム・ハマト選手。競泳女子
100メートル背泳ぎで銀メダルを獲得した最
年少メダリストの山田美幸選手は、表彰
台でマスコートを足で受けとって満面の
笑みを浮かべた。

障害者になろうと望んだ選手など一人
もない。それぞれが今ある機能を十全
に生かし、パラリンピアンになろうとし
た。そんな選手たちの一生懸命な姿は、
猛威を振るうコロナウイルスの前で戸惑
う、障害とは無縁だった人々の心にもな
にかを残したことだろう。大会を締めく

くる閉会式の平均世帯視聴率は20・6%^{*3}
だった。

私が最も心動かされたのは、ボッチャ
団体の3位決定戦だった。互いのミスを
カバーしながら、奇跡的なショットを連
発しての銅メダル獲得は、当選していた
チケットが不意になった悔しさなど忘
れ、空間を超えて自宅のテレビ前で選手
とのつながりを感じつつ、幾度も鳥肌が
立つほどに感動した。

スポーツには、社会に影響を与え、人々
の認識を変える力がある。一度でもパラ
リンピックを観た人なら、障害者が弱者
などではなく、多くの肉体的不便や精神
的辛苦を乗り越えて夢に向かう、むしろ
強者であることに気づかされる。

冒頭の富田選手のように、障害者と健
常者の区別がない共生社会の実現を、他
の選手たちも晴れ舞台で理想として語っ
た。それは、この国の現実が不十分で未
成熟であることの表れでもある。

後年、そうした理想に追いつく日が訪
れたとき、1年延期され、多くの人々に
反対され、無観客で静まりかえった会場
の、2度目の東京パラリンピックにも、
やはり、「意味」はあったと思いたい。

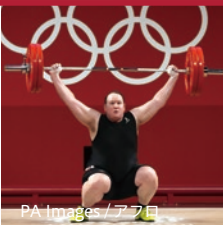


『サッカーボールの
音が聞こえる』
平山 譲著（新潮社・風
詠社）

※1 日本財団調べ。
※2 朝日新聞調べ。
※3 ビデオリサーチ調べ。

トランスジェンダー選手が初めて出場

ローレル・ハバード選手(NZ)が生まれた時の性別とは違う性別で女子重量挙げに出場



PA Image / アフロ

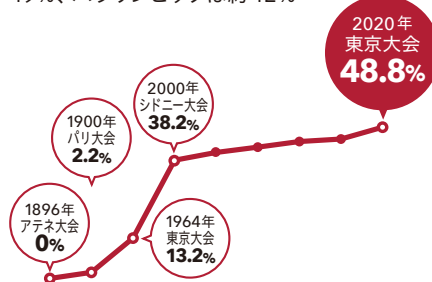
女性診療科の設置

選手村診療所に初の女性診療科を設置。女性アスリート向けの医療を提供



女性の参加(女性選手数)

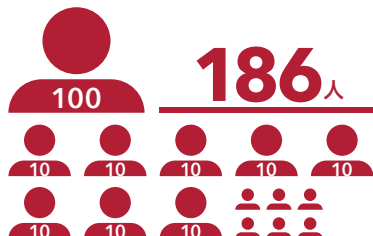
女性参加率はオリンピックでは過去最高の約49%、パラリンピックは約42%※1



出典：IOC、男女共同参画白書(平成30年版)

LGBTQ アスリート

LGBTQを公表してオリンピックに出場したアスリートの数が史上最多の186人。パラリンピックは36人※2で、ともにリオの3倍に



出典：米メディア「アウトスポーツ」



Photo by Tokyo 2020

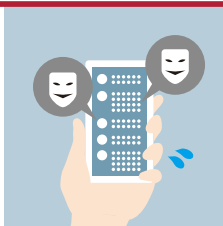
サインボード設置

パラリンピックの選手村に壁画(国連障害者権利条約とSDGsへの賛同を署名で表明するボード)を設置

東京2020大会 をめぐる 人権に関する出来事

SNS上での選手への誹謗中傷

五輪出場選手へSNSで批判や中傷が相次ぐ



反差別アクション

選手たちによる人種差別への抗議行動(女子サッカーの試合前のアクション)



白井タカ / アフロ

オリンピアド(オリンピック歴)

古代ギリシャで使われた4年を単位とした期間。東京大会の第32回オリンピアドの期間は、元々の開催予定年の2020年1月1日~2023年12月31日まで。大会終了後もオリンピック歴は続くため、コロナ禍によって未実施となった文化プログラムなどを収束後に実施するなど、オリンピズムの精神を実現する取り組みをレガシーとして継続できるかが課題



オリンピック・パラリンピック教育プログラム

東京都などの主導でオリンピック・パラリンピック学習読本や教材の作成・配布

バリアフリー

国が定める「バリアフリー整備ガイドライン」改訂で公共交通機関がより便利に



難民選手団

2016年リオ五輪に続き史上2度目の難民選手団が結成され29人が参加。パラリンピックは6人が参加



AP / アフロ

東京都の人権尊重の理念の実現を目指す条例

オリンピック憲章にうたわれた人権尊重の理念の実現を目的とする条例を制定



インタビュー

東京2020大会を振り返って、組織委員会の担当者に聞きました。

「日本が大きく変わる転換点に」
—東京2020大会の「レガシー」とは

「組織委員会では、大会の準備にあたり人権ガイドラインを作成し、調達する物品も人権侵害に関わっていないか、実務レベルでのチェックを行っていました。大会を機に、これまで以上に人権という潮流ができたと思います。振り返れば色々ありますが、人権意識の高い人や国であっても完璧はなく、万全策というものもありません。『まだまだ足りない』という認識を持ち、それを忘れることなく行動していかなければなりません。後に振り返った時に、日本が大きく変わる転換点だったと思いついてもらいたいです。」(東京2020組織委員会 持続可能性部長 荒田有紀さん)

オリンピック・パラリンピックの開催により次世代に残していくものは「レガシー」と呼ばれます。大きく言えば、あらゆる場面で人権を意識する視点を広げたこと、個人レベルでは、一人ひとりが受けた感動、違和感、理想の姿など、感じ取ったものを今後に生かしていくことが、今大会のレガシーとなりえるのかもしれない。東京2020大会を通過点とし、今後も人権に配慮し「共生社会」を目指すとはどういうことかなど、さらに議論を深めていくことができます。そういった中でこそ、人権尊重の取り組みを具体的に考える素地が築かれていくのではないのでしょうか。

インタビュー：執筆 編集部(東京都人権啓発センター)

※1 ※2 パラリンピックについては、すべての大会を調べられているわけではない。

※3 長年にわたる、特にポジティブな影響のこと。

ナビゲーター



とうきょうとじんけんけいはつ
東京都人権啓発センター
専門員 やぎ はな か
八木 花香

社会には、性別によるさまざまな偏見があります。例えば、なぜ「女の子」であることを理由に、やりたいことやできることを決めつけられるのでしょうか。もし、そのように言われたらどうすればいいのでしょうか。いっしょに考えてみましょう。



【テーマ】性別と偏見

子ども相談室
こんなとき、
どうするの？

かんがえてみよう！



ことし がつ はじめ とうしえん
今年8月、初めて甲子園で
こうこうじょしやまゆう けっしょうせん おこな
高校女子野球の決勝戦が行われました。

スポーツや身近なことを題材に、

みんなに平等に機会が

与えられているか考えてみましょう。



「女の子がサッカーをするのは変」など、
女の子であることを理由に、
男の子と違うことを言われます。

「女の子だから」と性別で差別をすることは、法律で禁止されています。私もサッカーをしますが、「男みたい」と言われたり、「女の子だから」大会に出られなかったりしたことがあります。しかし、チームの男の子や周囲の大人たちが、私がサッカーをできるように協力してくれました。もし、「女の子だから」と言われて嫌な気持ちになったら、誰かに相談してください。きっと周りには応援してくれる味方がいるはずですよ。

もっとくわしく
知りたい！

よ 読んでみよう！ せんもんいん ほん
専門員おすすめの本

れきし か にん じよせい
『歴史を変えた50人の女性アスリートたち』
(レイチェル・イグノトフスキー著・野中モモ訳／創元社)



子ども向けページへの
問い合わせ・ご意見
はこちらから→





大人おとなでも使うことつかのできる大きなベッド。おむつ替えおむつがえが必要なひつよう
 小さな子こどもからお年寄としよりりまで使つかえます。

12 Let's study universal design! / TOKYO人権 2021 Winter Vol.92

特集 農福連携の

ソーシャル

ファーム



障害がある人に雇用を提供するソーシャルファーム^{※1}が注目されています。ソーシャルファームは1970年代にイ

タリアで始まりました。一般の労働市場では仕事の見つかりにくい人に、働く場所を提供するという社会的な目的をもつことから社会的企業と呼ばれます。今回は、埼玉県を拠点に障害者の生活支援と農業による「働く場づくり」を行う埼玉福興グループの取り組みとその活動を支援する民間企業を紹介します。

「人を選んだら福祉ではない」

ソーシャルファームの特徴は、一般企業と同じように自律的な経済活動を行い、就労に困難を抱える人が必要な支援を受けながら、他の従業員と共に働く点にあります。このため、福祉事業所とも一般企業とも異なる「第三の職場」とも言われます。

埼玉福興グループは、グループホームで生活を共にしながら、農業を通じて就労支援と相談を組み合わせ、働ける人の就労につなげています。社長の新井利昌^{あらい}さんは、「縫製業を営んでいた両親が、『障害者が行く場所も働く場所もない』ことを知り、知的障害者の生活寮の運営を始めたことがきっかけ」と言います。「受け入れる人を選ばない」ことを理念に掲げ、精神障害と知的障害と発達障害の重複障害がある女性や医療少年院を出た人など様々な社会的弱者を受け入れています。

農業の福祉的效果

今では農業生産法人を設立し、水耕栽培や露地栽培でのタマネギ生産、稲作などに取り組んでいます。注意欠陥・多動性障害などの発達障害や精神障害など、障害の特性に応じて適した作業が異なるため、単調な作業が得意な人には水耕栽培を、作業に変化があった方がよい人には露地栽培を任せています。新井さんは

「人の力が足りない部分は土の力を借りて農家に負けない野菜が作れます。畝^{うね}が多少曲がっていても作物は育ちます。ビルの中ではなく、何もない大空のもとで農作業することで症状が安定するケースもあります。農業にはそうした福祉的效果がある」と言います。

社会貢献活動が社員の福利厚生に

こうしたソーシャルファームの取り組みを民間企業がSDGsの観点から支援する動きが広がっています。東京都港区に本社があるシナネンホールディングス株式会社^{よしだあきこ}の吉田明子^{あきこ}さんは、支援のきっかけを次のように語ります。「自然栽培を通じて障害者の就労支援をする取り組みに対し、企業が一反^{たん}分のパートナーとなる仕組みがあることを知りました^{※2}。社会課題の解決につながるだけでなく、会社にとっても成果があったと言います。「田植えや稲刈りに参加した社員は目を輝かせていました。障害のある多様な人たちと自然の中で気持ちよく作業をするこ

社会的健康^{※3}を目指して

埼玉福興グループでは、最近では若年性認知症やひきこもりの若者など、就労支



タマネギの苗の定植作業（提供：埼玉福興）

援がすぐに実現しないメンバーも増えています。「徘徊^{はいかい}してしまうならオリブ畑でヤギを連れて歩くことが仕事になるような仕組みを作ればよいのです。そうしたら福祉施設から受け入れてもらえない人やすぐに働けない人でもそこが居場所になります」。新井さんは、ソーシャルファームの目的は「人と社会がともに生き生きとするような『社会的健康』をつくること^{※2}」だと言います。「企業が一反のお米を買い取る支援によって、障害者の仕事ができ立ち、さらに支援してくれた企業の社員の皆さんも生き生きと健康になっ

てほしい。農福一体となったソーシャルファームをこれから多くの人たちが一緒につくっていききたいと思っています」。

ソーシャルファームを行政や民間企業が後押しする仕組みの一層の充実が求められています。

※1 東京都が全国に先駆けてソーシャルファーム促進に向けた条例を2019年12月に制定するなど、行政による支援も始まっている。

※2 農作物の自然栽培を通じて障害者の就労と耕作放棄地の再生などの農業の課題解決をめざす（一社）農福連携自然栽培パーティ全国協議会が行う「一反パートナー」プロジェクト。

※3 社会的健康とは「他人や社会と建設的でよい関係を築けること」を指し、生き生きと自分らしく生きるための条件の一つとされる（厚生労働省）。

JINKEN note

Column | 色々な人を包み込む(インクルーシブ)場所、「インクルーシブ公園」の存在意義

様々なニーズに対応した「だれもが遊べる児童遊具広場」とは？

みんなが遊べる公園
「インクルーシブ公園」
へ行こう！



インクルーシブ公園とは

障害の有無に関係なく楽しめる遊び場や遊具を備えた「インクルーシブ公園」が注目を浴びています。車いすで登れるすべり台、背もたれのついたブランコなどが遊具の一例で、全国で設置が広がっています。東京都内では2020年に世田谷区にある砧公園内の「みんなのひろば」、豊島区の「としまキッズパーク」がオープンし、都民に愛される公園として定着しつつあります。今回は、特徴の異なる二つの公園を訪れ、インクルーシブ公園の魅力を探りました。

砧公園「みんなのひろば」

「みんなのひろば」は、2020年3月、東京都が手がける「だれもが遊べる児童遊具広場」の都立公園第1号として、砧公園内にオープンしました。面積は約3200平方メートル。緑豊かな砧公園の一角に造られた見通しの良い広場です。肢体不自由や知的障害、視聴覚障害などのある子どもとの関係者への聞き取りに基づいて整備を行いま



親子で一緒に滑れる幅広の滑り台（砧公園「みんなのひろば」）
©(公財) 東京都公園協会

した。寝転んで乗れるブランコや親子で使える幅広の滑り台、車いすで通りやすい迷路など、多様なニーズに応える工夫が、至るところに見られます。

としまキッズパーク

「としまキッズパーク」は、2020年9月、豊島区が小学校低学年までの子どもや障害のある子ども向けの公園として設置しました。園内をミニトレインが走り、赤で統一された遊具、遠景に見える高層ビルが、大都会の中のテーマパークを思わせます。約1060平方メートルと小規模で、園内には、車いすに乗ったまま遊べる砂場や横に2人並んで座れるブランコがあります。スタッフが常駐し、注意が届くため安心して遊ぶことができます（時間制で入替あり。事前予約制）。

「みんなが遊べる公園」であるために

従来の公園には障害のある子どもが安全に遊べる遊具が少なく、子どもにとっては「公園に行きたい気持ち起きない」、保護者にとっては「子どもが暴走して迷惑をかけるのでは」といった心理的な距離感があり、誰もが楽しめるはずの公園が、おのずと「遊べない空間」になってしまっているという課題がありました。

今回、訪れた二つの公園は、大勢の子どもたちでにぎわう人気の公園であり、色々な人を「包み込む(インクルーシブ)」場所として成り立つインクルーシブ公園の存在意義を感じました。例えば、今まで外出をためらっていた人が「自分を受け入れてくれる場所がある」と感じられること、訪れた人が「この遊具はなぜこうなっているのだろう」と施された工夫を想像してみるなど、ここに至る様々なニーズを意識させられます。もっと「色々な人」がいることを知り、互いに接点を持ちながらみんなが遊べる場所として、公園の持つ可能性が広がり始めたと言えます。

インタビュアー：執筆 吉田加奈子・林勝一・村上由鶴（東京都人権啓発センター専門員）



上：園内を循環するミニトレイン
下：車いすを寄せやすい砂場（としまキッズパーク）

※1 砧公園：世田谷区砧公園1-1 TEL 03-3700-0414 入園料無料

※2 としまキッズパーク：豊島区東池袋4-42 TEL 03-4566-2697 入園料無料・事前予約制（利用時間は1時間の完全入替制）予約サイト：<https://coubic.com/toshima-kidspark>

※3 第2号が2021年10月に府中市の府中の森公園にオープン。国営昭和記念公園や渋谷区、足立区などの区立公園にもインクルーシブ遊具設置の動きが広がりは始めている。

12月4日～12月10日は人権週間、12月10日は世界人権デーです。

12月10日は、「世界人権宣言」が国連総会で採択された「世界人権デー」です。日本ではこの日に先立つ1週間を「人権週間」としています。

※東京都からの人権関連の新着情報は、総務局人権部のホームページでご確認ください。



夜間人権ホットライン

人権侵害や日常生活の法律問題について、弁護士が電話相談をお受けします。個人の秘密は厳守します（相談は無料）。

日 時 2021年12月6日（月）17:00～20:00
相談電話 03-6722-0127
問い合わせ 東京都人権プラザ
TEL 03-6722-0124 / 03-6722-0125

※詳細はこちらをご確認ください。



クローズアップ人権コーナー ホントの「いいね!」をめざして ～SNSのリテラシー～

SNSの利便性と危険性を知る情報モラルとインターネットリテラシーに関する展示を行います。

インターネットによる人権侵害

日 時 2021年12月3日（金）～2022年11月30日（水）
開室時間 9:30～17:30 日曜・年末年始休館（祝日は開館）
会 場 東京都人権プラザ 1階 展示室
問い合わせ 東京都人権プラザ

人権問題都民講座

マイフェイス・マイスタイル ～「見た目問題」から考えるコミュニケーション～

外見（見た目）に症状のある当事者が直面する、いじめや差別などの困難な体験や、それを引き金とした自己肯定感の低下、対人関係の悩み等について理解を深める機会としたいと思います。

日 時 2021年12月18日（土）14:00～16:00
講 師 外川 浩子（NPO法人マイフェイス・マイスタイル代表）
申込締切 2021年12月15日（水）
視聴方法 Zoom ミーティング（予定）
定 員 100名～300名（増員可）
問い合わせ 東京都人権プラザ
※情報保障、その他配慮が必要な方はお問い合わせください。

様々な人権課題



東京都人権プラザ企画展

「みんなのスポーツ可能性のフィールドへ」

東京2020大会の経験を踏まえつつ、様々な障害者スポーツに関する展示を行うことにより、「みんな」がスポーツに参加できる社会について考える機会としたいと思います。

会 期 2021年9月22日（水）～2021年12月24日（金）
開室時間 9:30～17:30 日曜休館（祝日は開館）
内 容 解説パネル・実物資料の展示等
会 場 東京都人権プラザ 1階 企画展示室

障害者

東京都人権プラザ（指定管理者：（公財）東京都人権啓発センター） 港区芝2-5-6 芝256スクエアビル TEL 03-6722-0123

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から臨時休館および会期変更の可能性があります。

(公財) 東京都人権啓発センター賛助会員募集のご案内

皆様とパートナーシップを築き、人権意識の高揚、人権問題の解決に向けて、ともに手を携えてまいりたいとの趣旨から賛助会員制度を設けております。趣旨にご賛同いただき、是非ご加入下さい。

個人賛助会員 一口 2,000 円

団体賛助会員 一口 30,000 円

問い合わせ TEL 03-6722-0082

（（公財）東京都人権啓発センター 総務課まで）



団体会員の皆様

（公財）東京都農林水産振興財団
（公財）東京都中小企業振興公社
（株）首都圏環境美化センター
（一財）東京都人材支援事業団
（株）ミライト・テクノロジーズ
（公財）東京都社会福祉保健財団

東京都中小企業団体中央会
東京都下水道サービス（株）
（公財）東京都歴史文化財団
（一財）東京都営交通協力会
（一社）東京都信用組合協会
（一社）医療大麻 dot オルグ

東京人権啓発企業連絡会
（公財）東京都学校給食会
（一社）東京環境保全協会
（株）東京国際フォーラム
東京臨海高速鉄道（株）
（株）東京エイドセンター

（公財）東京しごと財団
東京交通サービス（株）
東京都住宅供給公社
東京都職員信用組合
東京都商工会連合会
東京臨海熱供給（株）

（株）東京ビッグサイト
（公財）東京観光財団
（公財）東京税務協会
東京都立大学法人
（一財）東京都弘済会
自治労東京都本部

（株）東京交通会館
東京食肉市場（株）
東京港埠頭（株）
（株）ゆりかもめ
（順不同）

編集後記 特集でソーシャルファーム取材しました。水耕栽培からオリーブ園でのヤギの散歩まで。受け入れた方の多様な特性を「多様な仕事」につなげていく創造力。自然栽培されたお米は支援企業を通じて港区の子ども食堂に寄付されるといいます。農業と福祉の連携がもたらす効用が都市の暮らしにまで波及しはじめています。（林）

誰もが幸せを実感できる社会へ

TOKYO人権

Vol.92 2021年冬号 2021年11月30日発行（年4回発行）



マルチメディアDAISY版を作成しています。ご希望の方は（公財）東京都人権啓発センターまでお問い合わせください。「DAISY（デイジー）」とは、視覚障害などさまざまな理由で活字を読むことが困難な方のための、デジタル図書です。

この冊子は再生紙を使用しています。

制作 株式会社ブックマーク

発行 公益財団法人 東京都人権啓発センター

〒105-0014 港区芝2-5-6 芝256スクエアビル2階

TEL 03-6722-0085 FAX 03-6722-0084

https://www.tokyo-jinken.or.jp/